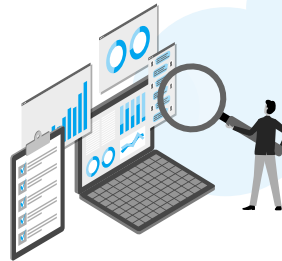


管理会計の 2つのチェック方法

税理士法人ベルダ 公認会計士・税理士
四国大学 特認教授
林 健太郎

管理会計とは経営判断に活用するための会計。先行き不透明な時代において、将来の予測をするために不可欠な業務です。管理会計の2つのチェック方法を解説します。



- 第12回 部門別P Lの要点
- 第13回 初期投資リスクの判断方法
- 第14回 **管理会計の2つのチェック方法**
- 第15回 中小企業でも押さえておきたいKPI
- 第16回 中小企業の原価計算のキホン
- 第17回 中小企業のファイナンス思考

ロジックチェックと ストーリーチェック

管理会計において、数字や資料を基にして得られるデータは、「利用して役に立つ状態」にしておくことが重要です。

そこで、数字や資料をデータとして提出する前に、どのようなことをチェックするべきかを解説します。

数字を出したときには、2つの視点からチェックを行なう必要があります。

(1) **ロジックチェック**

1つ目は、「ロジックチェック」です。これは、数字の理論的な正しさを確認するチェックです。

具体的には、転記の正確性、計算の正確性の確認などで、「転記ミスにより売上の数字を1ケタ多く入力している」「集計された表の数字がおかしい」といった間違い

いを見つけることです。

入力した元帳と請求書や領収書を突合するなど、経理担当者にとっては、なじみのあるチェック方法でしょう。

(2) ストーリーチェック

2つ目は、「ストーリーチェック」です。これは、数字の意味（感覚的な正しさ）を確認するチェックです。

具体的には、前期比較や予算比較での増減分析のときに書くコメントがこれに当たります。

「なぜそうなっているのか」「この数字が意味しているものは何か」を確認することで、数字や資料を、経営判断に役立つデータにします。

(3) 2つのチェックを行なう

たとえば、当期の数字が締まり、前期比でかなり差が出ているとします。

まず、ロジックチェックにより、その差が正しいかどうかを確認します。

ロジックチェックにより正しい数字であることが確認できたら、「なぜ前期比で売掛金大幅に増加しているのか」「各費用の増減値は何を意味しているのか」といったストーリーチェックを行ない

ます（図表1）。

経営判断に影響する ストーリーチェック

前提となる数字の正確性を確認するロジックチェックは重要ですが、経営者が知りたい情報は、ストーリーチェックにあります。

たとえば、前期との比較で売掛金が増えていたとします。

これを経営者に報告する際、そのまま「売掛金が増加しました」と伝えるだけでは情報の価値は低く、経営判断には活かされません。

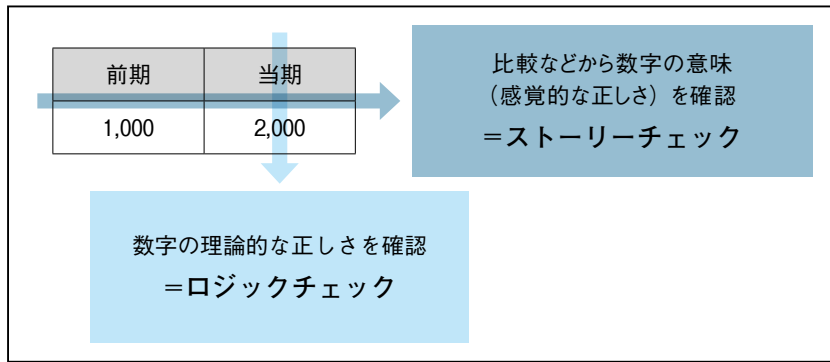
しかし、「〇〇商事の入金が遅れていて、普段は1か月分の売掛金が3か月分もたまっているの」で、売掛金の額が増えています」と、説明できれば、経営者は数字の原因まで理解できます。

そして、得意先との入金時期の交渉や、今後の取引の検討といった経営判断につなげることができると良いでしょう。

また、同じ売掛金の増加でも、「回収が遅れているわけではなく、毎月の売上が右肩上がりのため売掛金が増えている」というケースもあります。

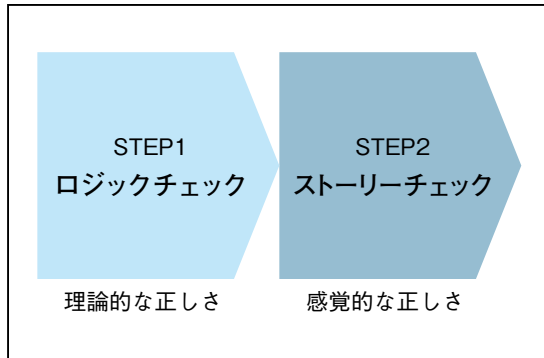
このような場合は、売掛金について特段の手立ては必要ないと判

図表1 ● ロジックチェックとストーリーチェックのイメージ



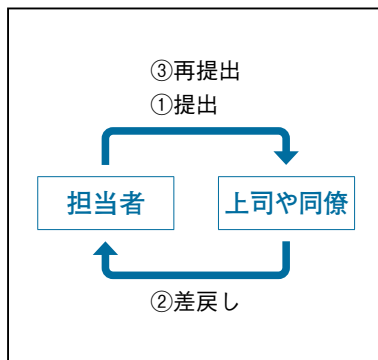
断できるでしょう。
ストーリーチェックを行なうことで、その後の行動が見えてくるのです。
経営者は、数字の報告を受けるときに、「要は、何なのか」「なぜこうなったのか」「もう少し深掘りして説明してほしい」という気持ちを持っていきます。
ストーリーチェックは、決算書

図表2 ● チェックの手順



などの数字を、経営者の知りたい情報に「翻訳」する作業です。
経理担当者は、日頃から慣れているロジックチェックよりも、ストーリーチェックを重点的に意識するとよいでしょう。
2つのチェックの正しい手順と業務の効率化
2つのチェックを行なう場合、まずはロジックチェックを行なうことから、ストーリーチェックを行ないます（図表2）。
基となる数字が間違っていた場合、ストーリーチェックでその背景を考察しても、結局「手戻り」になってしまうためです。

図表3 ● 手戻りのループ



手戻りとは、①担当者が上司に数字や書類を提出して、②チェックで間違いなどがあって担当者に戻ってきて、③また直して上司に出すことです（図表3）。
もちろん、この手戻りの回数が少ないほど業務効率はよくなります。そのためには、ロジックチェックで理論的な正しさを確認したうえで、ストーリーチェックで感覚的な正しさを確認することです。この順番を守ることで、手戻りを減らすことができます。
業務効率化のためにもう1つ挙げておきたいのが、「重複」と「反復」の2つの「ふく」をなくすることです。
重複は、たとえば、「前期の損益計算書を会計ソフトからダウンロードする」という同じ作業を複数の社員が行なうことです。

ストーリーチェックはAIで代替できない

反復は、たとえば、「前期の損益計算書を先月も会計ソフトからダウンロードしたけれど今月もダウンロードする」というように、自分が同じ作業を繰り返す行なうことです。
このような無駄が起きていないか、いまいちど業務を確認してみましょう。

繁忙期などで時間が十分にとれないときは、ロジックチェックよりも、ストーリーチェックを優先的に行ないましょう。
ロジックチェックは、AIにある程度任せられることを検討してもよいかもしれません。

一方、ストーリーチェックをAIに任せるのは、まだ難しいようです。
これは、AIが、相手に合わせてカスタマイズした対応をすることが苦手なためです。

AIの進化によって、今後の様相が変わる可能性はありますが、経理担当者は現在のAIでは代替できないストーリーチェックのよきスキルを磨いておくことが重要です。

はやし けんたろう 徳島県鳴門市出身、一橋大学経済学部卒業。監査法人トーマツ、辻・本郷税理士法人を経て、2011年より独立開業。会計を通して経営のサポートを行なう。四国大学特認教授。